

科目名	ロシア史概説	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	アレクサンドル プラーソル		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-330001	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	このコースの目的は、ロシア人の直接の先祖である東スラブ部族の結成時代から1917年の社会主義革命までのロシア史においてもっとも重要な出来事、社会の動きとその意義について考えながら、ロシア史の重要点を紹介することである。ロシア社会の歴史的発展に自分の名を残した皇帝や為政者や大将などの活躍について考察していきたいと思う。				
学修到達目標	高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協動的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	東スラブ人の建国（キエフ・ルーシ）
第2回	分裂時代とモンゴル支配
第3回	モスクワ公国の台頭

第4回	イワン雷帝の恐怖治世と中央権力化
第5回	動乱時代とロマノフ王朝の成立
第6回	ピョートル大帝 「玉座の上の革命家」
第7回	ピョートルが作った都（ビデオ教材）
第8回	18世紀のロシア 女帝時代・宮廷クデター時代
第9回	実績の多いエカテリーナ2世の統治
第10回	エカテリーナ2世時代の日露交流のエピソード（ビデオ教材）
第11回	アレクサンドル1世の改革とナポレオン戦争
第12回	ニコライ1世の「社会安定性」
第13回	アレクサンドル2世の大改革

第14回	アレクサンドル3世の「愛民統治」と経済成長
第15回	20世紀初頭・革命時代と帝政ロシアの没落
第16回	期末テスト

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。前週配布資料を通じての予習
【復習】時間・内容	2時間。配布資料の見直しと不明点を調べ理解する。

成績評価	
評価基準・方法	期末試験の点数(60%)、課題(20%)、授業参加態度(20%)を合わせて総合的に評価する。
フィードバック方法	試験後に模範解答、講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク
教科書/参考書	栗生沢猛夫著 図説ロシアの歴史 増補新装版 河出書房新社 2014 和田春樹著 ロシア A Historical Guide to Russia 山川出版 2001 ピエール・バスカール著 ロシア史 白水社 1970
受講上の留意点等	毎回資料を配布し、PowerPoint presentationを利用する。授業を休んだ生徒は自己の責任で資料をそろえること。学期末に筆記試験を行う。合格するには66%以上の出席率と2回のレポート提出が必要である。
JABEE	